

ようぼくの心と心をつなぐ

News Letter



新年あけましておめでとうございます。

旧年中はお道の御用の上に、真心込めてお勤め下さいまして誠にありがとうございます。心より厚くお礼申し上げます。

年改まりましたので、心機一転して、教祖からお譲り頂きましたすけ一條の道を、脇目も振らず一心に進ませて頂きたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は、これまで積み上げてきた成人の歩みを更に力強いものにしていかなければなりません。そのためには志を高く持ち続けることが大切です。

教祖は、いつも人をたすける心で生きること、そして、どんな事が起こってきてもそこに溢れる親心を汲み取って、必ず成人につなげていく通り方を、身を以てお教え下さいました。

素直に見直し、改善への努力を惜しまず、思い切った決断と粘り強い実行で、陽気ぐらし世界実現の志を受け継いでいきたいと思えます。

立教百八十一年元旦

岡大教会長

吉田 孝敏

婦人会岡支部長

吉田 陽子

心の切り替えがをやの望み

11月月次祭 神殿講話要旨

芦刈分教会長 山内 光男



教祖130年祭の1、2年前に修理人巡教があり、上田則之先生がお越しくださいました。いろいろと話を聞かせて頂き、感銘を受ける中、妻が「ちょっとお尋ねしてもよろしいでしょうか」と言った。何を言うのかなと思っていると、「私には息子が4人います。そのうち2人がまだ結婚していません。お道の御用もさせていただいておりますが、なぜでしょうか」と尋ねた。私も、一人の教会長として、信者さんやにをいがけ先の方からさまざまな質問を受けることがある。「信仰していてどうにかなるのか」や『陽気ぐらし』とはどんな暮らしなのか」など、返答に困る質問もある。上田先生は何と答えられるのかと思っていると、「まず、種をまくには土地を耕し、肥料をやる。そして、種をまき、土をかぶせ、そして時期が出たら芽が出る。だから、もう少し待たれたらどうでしょうか」と答えられた。その答えに、ただただ「すごいな」と感じ、同時に私は「動かなくてはいけない」との思いが膨らんだ。

教会長は、信者さんなどからさまざまな質問を受けることがある。私は色々な宗教書を読んできたが、ある本にこんな内容が書いてあった。「まぶたが閉じてしまう奇病を患っている方が私のところに見えたことがあった。霊視してみると、『こんなはずじゃない。こんなはずじゃない』と、まっ暗闇の中でさまよっているお婆さんの姿が見えた。このお婆さん、生前は天理教の熱心な信徒であった。天理教といえば、ひのきしんといって、体施、物施、法施を徹底する宗教である。このお婆さんもご多分にもれず、人一倍ひのきしんを実践していた。だから当然、死んだら極楽浄土に行けると思っていた。ところが、行つた先はまっ暗闇、そこで、『こんなはずじゃない。こんなはずじゃない』と言っていたのだが、このお婆さんは、この世でもあの世でもよく暮らしたいという心、つまり過度の自分が救われたという欲望の想念で体施、物施、法施を行っていたのである。その過度については、「物事を明るい方へ考える。くよくよしない」、「慈悲の心をもつこと（慈悲とは、迷っている人に楽しみを与えるという意味）。温かい愛の心を持つこと」、そして「地位や名誉、権力、それから金や物、仕事、恋愛や恨みなどに執着しない」と示されていた。私はこれを読んで、感銘を受けた。

先に述べた「体施」、「物施」、「法施」の「体施」とは、体で呈するひのきしん。二つ目の「物施」は、物やお金を御供、献金させていただくこと。三つ目の「法施」は、神様の教えを述べ、伝え広めること。先の本には、これができるのは「天理教のようきぐらしだ」とも書いてあった。私自身、

人様に、特に天理教を知らない人に「陽気ぐらしというのは、こういうものだ」と説明することができるのだろうかと考えさせられた。



話は変わるが、教会の近所に女性のようぼくがおられる。約30年前に教会に来られ、夫婦のことで悩みを打ち明けられた。その時、私は「あなたも少しは反省すべきところがあるのではないか」と話していたようで、それを受けてその信者さんはいろいろと自身を省み、改心なされた。そして、それ以降事あるごとに教会に足を運ぶようになり、おさづけの理も拝戴してくださった。現在は元気でおられ、本当に信仰のおかげだと感じる。

その信者さんが、ある時、ご飯を食べていたら口の左側から少し食べている物が落ちるようなことがあった。心配になり、かかりつけの病院で相談すると、右脳に小さなコブが発見されたという。しかし早期発見だったので大事にはいならず、教会に来て非常に喜んで話してくださいました。しかし、私はその時に「それだけでは駄目だ」と話した。

世の中には、「自分は何者か」、「生きるとは何か」、「死ぬとは何か」といった考えを巡らせる聖者といわれる人がいる。私はこの信者さんに、以前読んだことのある本の内容から、この聖者が言ったことを引用して伝えた。

その本では、ある信者が聖者に「私は頭が悪く、信仰心も薄い。しかし、少しずつでも精神レベルを上げて、最後には神様を悟りたい。いったいどうすればいいのか」と尋ねた。この質問に対して聖者は、「二つの方法がある」と答えた。一つは、「高德人に付きなさい。そうすれば、必ずあなたの精神レベルを上げ、最後は必ず神に会わせてくれるだろう」と。その信者が「では、そういう人と出会える機会がなければどうすればいいか」と聞くと、聖者は「高德の人が見つからなければ、霊地、聖地と言われる場所を訪れるように」と促した。霊地、聖地と言われる場所を訪れるように」と促した。霊地、聖地と言われる場所を訪れるように」と促した。霊地、聖地と言われる場所を訪れるように」と促した。行者や信者が悟りを開いた所であり、目には見えない独自の波動が流れて

いるという。「その場所に行くだけで何かしらの影響を受け、いつか必ず悟りを得ることが出来る」と聖者は話している。このような内容を引用しながら、私はその信者さんに「あなたはようぼくになっているから、一年に一度はご本部にお参拝させていただいたらいかがか。それが一番の予防薬だ」と話した。

この聖者の話には続きがある。いま世界中では、いたる所で紛争が起こっている。また、この紛争を含め、さまざまな理由から苦しんでいる人が多く存在している。このことを「どう思いますか」と聖者に問うと、聖者は「世界のことは神様にお任せしておけばいい」と答えている。「では、我々は何をすればいいのか」と聞くと、「まずは自分自身を知りなさい」と諭される。

教祖ご在世当時の江戸時代には、士農工商という身分制度があった。インドでは、カースト制度というものがある。お道は、このようなものを打破するのが目的の教えではなく、まずは一人ひとりの心の切り替えを望んでおられる。また、そういうことを教祖はお教えくださっている。

神様に参拝させていただき、額づく。すると、心が落ち着き、心にゆとりが生まれる。そうしたら、自分に与えられた境遇に感謝できるようになる。自分に与えられた役目をしっかりと務めさせていただき、能力や運命を利用しながら輝いていくことが大切であると、書物に書いてあった。私は最近、一人の人でもいから「教会のおかげ」とか、あるいは「あなたのおかげ」と言ってもらえると、生きている価値があるのかなと思う。

明治26年4月29日の『おさしづ』に、「危ない事、微かな理で救かるは日々の理」とある。どういう事かというところ、大難は小難、小難は無難にと微かな理でたすけていただけ。その元は何かというと、それは毎日コツコツと積み重ねたものである。日々の積み重ねの大切さを教えるのださっている。



過去最高の74人が集結

関東の教友が一手一つにおつとめ

「関東おつとめ日」

関東の教友が一同に会する「関東おつとめ日」が11月19日、岡瀧分教会（常道久雄会長）を会場に開催されました。6回目の開催となった今回は、神奈川や千葉、東京、埼玉などから74人（内訳／14教会、大人55人、少年会員19人）が参加。過去最高の参加者数となりました。

当日は、記念撮影と三殿礼拝の後、まず大教会布教部の張間道男部員が講話。おつとめの大切さや心構えなどについて話し、一手一つに心を合わせておつとめを勤めました。会場責任者の常道会長は、「念願だった一人一役でのおつとめ。3交代51人のご守護を頂き、本当にうれしい」と、勇み心いっぱい「みかぐらうた」を唱和されました。

おつとめの後は、恒例の懇親会。今回は、大教会による改修で整備された神殿下の駐車場をメイン会場に開催。ジンギスカンや焼き鳥などの模擬店が出され、少年会員によるダンスを披露。また、声楽家の小西雅子さん（福門分教会）と門下生の皆さんによる歌声も披

露され、参加者お互いが交流を深めながら、元気と勇心を頂けた「おつとめ日」となりました。



▲整備された神殿下の舞台上、ダンスを披露する少年会員

老若男女 和気あいあいと

年末恒例の「神殿大掃除」

年末恒例の大教会「神殿大掃除」が12月10日に実施され、約50人が参加していただきました。

この日の奈良県の最低気温は25℃。寒空のもと、神殿周辺の普段手の届きにくい場所を重点的に掃除し、特に今回は、神饌室の神具倉庫

内も大掃除。使用頻度ごとに道具類を選別し、収納し直しました。

そのほか、信者会館周辺も分担して掃除を実施。少年会員も窓ふきを担当し、和気あいあいとした雰囲気の中で、一年の汚れをきれいにしました。



▲▶寒さもいとわず、心勇んで大掃除。少年会員の子供たちも、元気に窓ふきを担当した

12月「おぢば伏せ込み団参」



今月のおぢば伏せ込み団参は76人のご参加をいただき、東講堂周辺の落ち葉掃除、除草ひのきしんをさせていただきました。

一年間の総数は661人。今年もありがとうございました

第26回南相馬生活復興支援ひのきしん隊報告



残された課題に向き合う

今回も牛越・大鹿という残留する人のまだ多い仮設住宅を訪問した。終わりに当たって二人の自治会長さんが挨拶下さった。G氏は再建した自宅での暮らしを始めているが、自治会長を引き受ける人がないので来年3月末までは通ってやるが、後はどうなるだろうか、と。Sさんは、大きな家が有るが今は一人暮らしで周囲の人も戻ってないから、まだそこで寝たことはない。「本当に天理教さんには大変お世話になりました。今もなお支援を続けてくださることに感謝しています」と、心からのお礼を言ってお下さる姿が強く印象に残った。これから閉鎖の波が押し寄せる南相馬の仮設住宅（30程）。集約されて最後まで残るであろう牛越・大鹿にしても訪れる支援者は途絶えてきている。

この日だけは穏やかないいお天気だった。「ハイハイハイハイ！」と調子のいい三人搦まきのかげ声空き室の多くなった仮設住宅に響く。20名程の人たちが楽しそうに見守る。そして、切り分けた餅をぜんざいにしたり、餡子やきな粉、



▲搦きたての温かいお餅に舌鼓を打つ皆さん

大根おろし、そして地元馴染みのおろしニンニクで平らげていく。驚いたことに二白目ふたうすもペロリ。自治会長のG氏も搦こぎ、地元の婦人さんが捏こねて、そこにいつものように岡瀧分教会の常道会長さんが雰囲気を一層盛り上げる。みんなで一時的賑わいを楽しんだ。時にはこんなことも味わってもらいたい。

出てくる方は多くはなかったが、およそ50人ぐらいだろうか。それでも、夕食の相嘉特製ラーメンにみんなで一息懸命焼いたタコ焼きを笑顔でおいしく食べて下さった。合間には、相嘉の柿、界澄から届いた紅アズマ（サツマイモ）と根深ネギを持って、小池小草、小池第三、牛河内第二の各仮設に残留する30戸余りに届けて回った。

今回の参加者は27名、会長夫妻11名、布教所長夫妻3名、ようぼく10名、秋田からの賄い支援3名。義援金、準備片付け等の後方支援を含

め、いろいろな方々の真実で成り立っている。ひのきしんの輪に加わり手伝って下さるような人達はほとんど居なくなつたが、滞在中にこれまで訪問してきた各仮設の人達が10名程も訪ねてきて下さつた。その方々と談笑する中に、おちば発おちば着のこの支援活動が6年間も続いている実感を得た。



▶年末の風物詩のお餅つき。仮設住宅に、賑やかな掛け声とお餅を搗く音が響いた。

第6回熊本地震復興支援ひのきしん隊報告 炊き出しと住居清掃を実施

昨年4月に発生した熊本地震。最も大きい震度7を観測する地震が14日夜と16日未明に発生したほか、震度6強が2回、震度6弱が3回発生しました。地震発生から1年8カ月が経った12月、「第6回熊本地震復興支援ひのきしん」として、益城町小池島田仮設団地へ。当日は、12月に入ってからの厳しい寒波が嘘のような温かい好天のご守護を頂き、大教会長様・奥様をはじめ、福岡と佐賀から参加した18人で実動させていただきました。

婦人会の奥様方による「キツネうどん」と「白玉ぜんざい」の炊き出しでは、温かく陽気な日差しに負けないくらいの温もりをお届け。食事中には、住民の方々とおしゃべりを通して交流を深め、悩みごとや先の不安などを聞かせていただきました。

また、男性陣は、以前の実動から続けている住居スペースの掃除を担当。換気扇や網戸、窓ガラス拭きなど、事前に要望のあったお宅に伺い、今年一年の「すす払い」を行いました。高齢者の多い仮設団地だけに、「日頃から掃除をしたいと思います」でも、特に高所は手が届かず、



▲高齢者の多い仮設団地で、住居スペースの大掃除。換気扇や網戸などを丁寧に洗っていった

気になりながらも手を付けることができなかった」という場所を重点的に掃除し、大変喜んでいただけました。

この1年、熊本県益城町を中心に支援活動を展開したほか、福岡県朝倉市杷木や、大分県津久見市などでも実動させていただきました。ご参加くださいました皆さん、また後方支援をしてくださった皆さん、本当にありがとうございました。文／早田茂・東鹿島分教会長



元一日を胸にご恩報じの道を

須光分教会創立70周年記念祭執行

おちばの秋季大祭の日、存命の教祖から須光分教会（光武松市会長）「創立70周年記念祭臨時祭典願」の理のお許しを頂いて、10月29日、岡大教会長様ご夫妻13年ぶりのご臨席を賜り、東松浦分教会長様ご夫妻、東松浦分教会前会長様はじめ、来賓、須光分教会のようぼく、信者総勢約130人が参集し、賑やかに記念祭をつとめさせて頂きました。

29日は季節外れの台風が九州に最接近し、朝から雨模様でしたが、おつとめが始まる頃には雨も上がり、予定よりも多くの参拝者をご守護いただきました。この日を迎える一連の流れを振り返ると、理のお許しの鮮やかなご守護に感動しました。

10時の記念撮影の後、10時30分より記念祭を執行。大教会長様、奥様を芯に東松浦分教会長様の地方で勇んだ陽気なおつとめをつとめました。おつとめ後の大教会長様のごあいさつでは、当教会の客間にある前真柱様より頂いた「一粒万倍」の色紙にふれられ、掛け軸の「存命の理」について説明。おつとめの大切さと、「みかぐらうた」第一節から三節の意味合いについて解

説して頂きました。

会長お礼のあいさつの後、ビデオで当教会の70年の歩みを振り返り、鏡割りで会食がスタート。会食では、仮設の舞台で余興なども実施し、大人も子供も終始和やかに、楽しいひと時を過ごしました。

さて、須光の道は大正6年9月、二代会長の光武チエ25歳の時に、「瘰癧るいれき」結核性リンパ腫の身上から東松浦分教会布教師、武谷政之助たけやまのすけ先生の導きにより入信しました。

大正14年6月、教校別科修了後は熱心に布教に従事。その後、夫（光武松一初代会長）も入信し、昭和15年に平恒布教所を開設、終戦後間もない昭和22年10月28日に理のお許しを頂き、現在の地で教会設立に至りました。

道は末代と聞かせて頂きます。次なる塚の10年後を視野に入れて一日一日を大切に、初代が「孫子の末まで信仰を伝えます」と誓った元一日を忘れず、それぞれが次の世代に信仰の喜びを伝えて、ご恩報じの道を歩んで行きたいと思えます。

大教会にも台風の爪痕——。

全国的に暴風となり、西日本から東北地方の広い範囲で河川の氾濫や浸水害、土砂災害などを引き起こした台風21号。翌週には、非常に強い勢力を保った台風22号が接近し、各地にその爪痕を残した。

大教会でも、台風による被害が発生。客間東側の山では、複数個所で土砂崩れが発生し、畑の一部が埋没。また、春になると私たちの目を楽しませてくれる桜が、台風の影響からか倒木



してしまいました。かなりの大きさではあったが、「このまま放置することもできない」と、倒木した桜を切り出すことに。急斜面での作業で、すぐ下には客間が建つ。声を掛け合いながらチェーンソーで切断し、少しずつ作業が進められた。

婦人会「伏せ込みひのきしん」

R180年11月22～23日

担当係より

参加して下さった皆さんは、とても明るい方ばかり。和気あいあいと楽しく、元気に心勇んでつとめさせていただきました。ありがとうございました。



担当係/村田 篤子(福門)

参加者/金武直子(香蘭)、森川まさみ(伊萬里)、大坪千工子(明祐)、張間典子(敷津)
高野知永子(道弘)、永井千恵美(岡垣)、森川佳代子(千代町) 順不同

「陽気ぐらしのたね」を手に国々所々へ

とても素敵な「後継者講習会」受講生の表情

20歳から40歳までの「道の後継者」が親里ちばに集い、共に研鑽する「後継者講習会」。岡大教会からも続々と対象者がおちばへ帰り、第14次が終了した現時点で67人（男子38人、女子29人）が受講しました（12月23日現在）。「講習会」を終えた受講生の表情は生き生きとし、岡詰所で開催される最終日の会食では、「講習会」では、今まで誰にも話したことの無い自身の胸の内をさらけ出すことができ、成長を感じた「私が思い悩んでいることと同じ境遇の方と出会わせていただき、一人じゃないと思えた」、「持ち場立場の違いお互

いの話を聞くことで、信仰者としてどう考え、どう歩みを進めるべきかを学んだ」といった感想が聞かれました。受講者のほとんどが、この「講習会」を通して「心の向きを変えれば、人生はもっと、わくわくする」瞬間を体験しているのです。道の将来を担う人材の育成が強く望まれる今、特に若者の丹精は重要な課題です。また受講申し込みが終わっていないあなた―受講を悩んでいるあなた―ぜひ、「後継者講習会」を体験してください。そんなあなたに、「後継者講習会」の中身を少し紹介します。

「後継者講習会」は、3日間のプログラムで開催されています。初日は午前8時30分に詰所へ集合し、受付。諸説明が終わると、各宿舍へと移動します。

宿舍へ到着すると、あらためて宿舍での受付を済ませ、振り分けられた部屋へ移動。宿泊は基本的に、直属教会ごとに部屋割りされ、人数が少ないところは、複数の教会が相部屋となります。

開講式前に行われる宿舍でのオリエンター

ションでは、部屋ごとに自己紹介を済ませ、お互いの緊張をほぐします。そして、開講に先立って東礼拝場でおつとめが勤められ、第3食堂での開講式が終わると、いよいよクラスごとのプログラムが始まります。

プログラムの最初は、午後から実施される「クラスミーティング」。教室をのぞいてみると、クラス別に各教室に集まった受講者は、初対面のメンバーを前に緊張した様子。しかし、自己紹介やチーム対抗の簡単なゲームなどを通して



▶詰所での会食の様子。昼食を共にしながら、「講習会」の感想を語り合う

緊張をほぐすと、しだいに表情が和らいで笑顔に。少しずつ交流が深まる中、5、6人ずつの班に分かれて、班ごとのねりあいが進められていきました。「講習会」では、基本的にこの班のメンバーとプログラムを進めていきます。そして、クラスは同じ直属の仲間と一緒にいることとはありません。新たな出会い、あらたな交流

のためです。

夕食を済ませると、本部夕づとめへ移動。夕づとめは、班のメンバーと参拝するか、同じ所属教会の仲間と参拝するかは自由です。

夕食後は、宿舎での「部屋別グループタイム」や男女それぞれの感話、「青年会の時間」、「婦人会アワー」など、男女に別れてプログラムが組まれています。消灯までの時間は自由で、部屋ごとのメンバーで時間を共有し、お互いの交流を深めることができます。宿舎にお邪魔してみましたが、とても楽しそうで賑やかでした。

二日目は、本部朝づとめに参拝し、朝食を済ませると「第1講 日々の身近なところからの陽気ぐらし」を受講。その後のクラスミーティングでは、講義を通したねりあいが進められます。お昼からは「第2講 陽気ぐらしの実践」を受け、ねりあい。翌3日目の

「第3講 たすけ一条の道」へと続き、自らの陽気ぐらしの実践について考えます。最終日、プログラムの最後は、真柱様のお言葉を頂戴します。クラスミーティングを通して、陽気ぐらしの実践に向けたねりあいを進め、自らのこれからの一步をイメージし、私たち「道の後継者」に期待していただく真柱様の親心を胸に、それぞれ国々所々へと戻ります。

解散直後、東礼拝場で生き生きとした表情を見せる受講生のテキストを見せてもらおうと、その最後のページには、これからの自身の目標として「陽気ぐらしのたね」が書かれていました。おちばで一人ひとりが心を定め、それぞれの持ち場立場に戻って、陽気ぐらしを実践していく……。その「たね」を手にした受講生の皆さんは、やっぱりいい顔をしていました。



解散直後、東礼拝場で生き生きとした表情を見せる受講生のテキストを見せてもらおうと、その最後のページには、これからの自身の目標として「陽気ぐらしのたね」が書かれていました。おちばで一人ひとりが心を定め、それぞれの持ち場立場に戻って、陽気ぐらしを実践していく……。その「たね」を手にした受講生の皆さんは、やっぱりいい顔をしていました。

受講の呼びかけにご活用ください！

後継者講習会ルポ「未来へ繋ぐ旬の風」



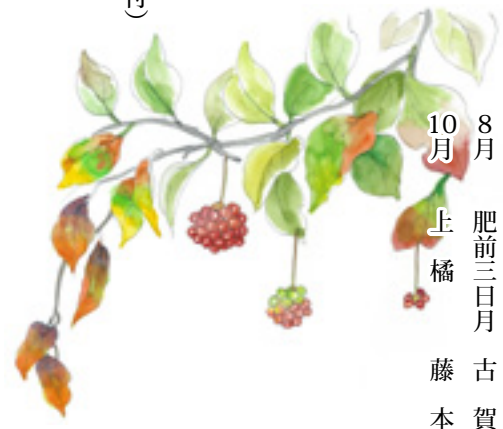
▲画像はルポ「未来へ繋ぐ旬の風」のスクリーンショット

「後継者講習会」を受講し、陽気ぐらしの実践に向けた思いを固める教友の姿を紹介しているルポ「未来へ繋ぐ旬の風」。後半には、光武大和さん祐子さん夫妻（須光分教会長後継者）の姿も紹介されています。「後継者講習会」の様子が分かる動画が「YouTube（ユーチューブ）」で紹介されています。「YouTube」で「後継者講習会」と検索してみてください。

Monthly Information

1 日 元旦祭
 4 日 お鏡開き
 5 日 お節会
 8 日 岡心勇隊奈良中和地区
 9 日 岡心勇隊五條橋本(あやの台)
 11 日 大教会長直属巡教
 13 日 婦人会委員会 岡心勇隊八幡地区
 14 日 鼓笛隊練習日
 15 日 大教会ひのきしん(道弘)
 16 日 第16次後継者講習会
 17 日 関西盛華会(大教会会場)
 21 日 大教会ひのきしん(相嘉)
 22 日 役員会議 大教会史編纂作業部会
 祭典準備ひのきしん
 大教会ひのきしん
 (表野・飛鳥川・岡萩)

27 日 少年会年頭幹部会
 婦人会創立記念の日
 28 日 九州盛華会(西北会場)
 30 日 岡心勇隊姪浜会場
 30 日 第18次後継者講習会
 ◆大教会人事
 ・直属学生層育成担当者(10月23日付)
 表野 蓮池 理弘
 相嘉 安井 崇
 飛鳥川 出口 美樹
 忍海 張間 力
 枚方 津田 美智子
 岡谷 森井 典子
 北松浦 出口 章美
 東松浦 早田 茂
 〃 藤本 健二(副)
 西北 森川 佳代子
 福門 内田 秀和
 岡萩 森本 恵美子
 道弘 芝田 善展
 眞世 森井 みどり
 南 大谷 耕一
 〃 篠北 裕子(副)
 眞澄 森 佑真(11/23付)
 ◆新任教会長の集い(11月27日~28日)
 杵島 原 秀喜
 大博 野田 初音



◆教養掛(1月)
 岡萩 森本 喜治
 ◆教人登録(12月9日付)
 西肥 和田 潤子
 住之部 山科 一彦
 ◆別席願(11月16日~12月15日詰所受付分)
 東志免 高場 優介
 ◆おさづけの理拝戴願
 (11月16日~12月15日詰所受付分)
 貞元 古賀 洋平
 【訂正】
 前号掲載の立教181年修養科教養掛に誤りがありましたので、左記の通り訂正いたします。
 8月 肥前三日月 古賀 洋
 10月 上 橘 藤本 健二